会議状況等報告書						報告者	杉					
会議の名称		令和6年度第2回大府市多文化共生推進委員会										
日時		令和7年2月3日(月)17時30分～19時00分					場所	市役所地下会議室001				
出席者	推進委員	松宮 委員長	大嶋 委員	岡田 委員	竹内 委員	嘉無木 委員	二村 委員	北嶋 委員				
		○	×	○	×	○	×	○				
出席者	事務局	山口 副市長	近藤 部長	田中 課長	小林 係長	前田 主事	アダム CIR	杉 主事				
		○	○	○	○	○	○	○				
内容(要点記録)												

議事進行：松宮委員長

傍聴人：なし

1 委員長あいさつ

2 議題

(1) 大府市における在留外国人の現状について

(委員長) 大府市に限らずコロナ禍以降、日本人が減少し、外国人が増加している自治体が増えてきている。大府市は現在、全体の比率で4%近くの外国人が居住しており、この10年で日本の総人口に占める外国人の割合を上回るようになった。今までは少なかった国籍の外国人も増加しており、今後新たな課題も出てくると思われる。

(2) 大府市在住ウクライナ避難民について

(委員) ウクライナ避難民は今後も日本に居住することを希望しているのか。

(事務局) 高齢や家庭の事情を理由に母国に帰ることを望んでいる方もいるが、日本語を学びながら仕事を探すなど日本での生活を望んでいる若い方もいる。

(委員長) 大府市で生まれたウクライナ避難民のこどもの在留資格は何か。

(事務局) 「定住者」になる。避難民としての支援は受けられないが在住期間の制限はない。

(3) 大府市多文化共生推進プラン3の進捗について

(委員) 国際交流協会の日本語教室について、市役所の地下会議室を使用しているが、市のイベント等があると場所を確保できず、他の場所で日本語教室を開催することもある。いつも同じ場所で開催することができればありがたい。また、こどもの人数が増えてきているのに対しボランティアの人数が増えず、苦勞している。

(委員長) 日本語教室の開催場所として、市役所は駅から近くて集まりやすいと思う。

(委員) 日本語教室の場所が変わる場合は、国際交流協会からも案内をしているが、担当課からもSNS等を通じて案内をしてもらいたい。

(事務局) SNS運用については再来年度以降の実施に向けて、実施計画に計上し、働きかけ

をしていきたいと考えている。また、市や国際交流協会が情報を発信するのも効果的だと思うが、外国人コミュニティに対して情報を発信するのも効果的ではないか。外国人コミュニティに影響力のある人が情報を発信するように国際交流協会が働きかけると良いかと思う。

(委員)

検討する。

(事務局)

国際交流デーなどのイベントで外国人コミュニティとつながりを作るとよいと思う。また、WKY 日本語教室では、以前勉強をしていた外国人市民のこどもがボランティアとして参加している。そのようなところから協力者を見つけることができるのではないかと。

(委員長)

西尾市などでベトナム人コミュニティの中心になっている人は、会社で通訳として勤務している人である。日本語が堪能なので、日本語の情報を受け取りつつ、外国人コミュニティに伝えることもできる。そのような人が日本語教室や国際交流協会の活動、地域活動にも参加するケースが増えてきている。そのような人がいればよいかと思う。

(事務局)

名古屋国際センターなどに相談するとよいのではないかと。委員の会社の外国人従業員が情報網をもっているのではないかと。

(委員)

従業員とのコミュニケーションは通訳を通して行っているため、通訳者が影響力を持っていると思う。

(委員)

従業員はどこの国籍の方が多いのか。

(委員)

ベトナム人の従業員が多く、16 人在籍している。その他はインド人などがいる。

(委員)

通訳者はベトナム人なのか。

(委員)

外部の通訳者もいるが、社内では日本の大学を卒業したベトナム人に通訳を依頼している。

(事務局)

ブラジル人に関しては、世代交代が進んでいるように感じる。かつてはブラジル人コミュニティの中にキーパーソンがいてコミュニティの中で影響力があったが、その人達が高齢化して引退していったように感じる。

(委員)

日本語があまり話せないブラジル人が高齢化している。今後介護問題等も出てくると思う。

(委員長)

日本語教室の課題について、2020 年（令和 2 年）に名古屋市の日本語教室で調査を実施した。緑区は日本語教室があまりないので、栄や新栄などにわざわざ通っている人もいる。日本語教室への参加を大府市民に限定しないのであれば、緑区などの市外の人に参加してもらっても良いかと思う。

(事務局)

現在、緑区の方も大府市の日本語教室に通っている。

(委員長)

インドネシア人などは、将来母国の日系企業で働きたいと望んでいる方もいる。その人達に日本語教室の需要があるのではないかと。こどもがいて日本語教室に参加できない等の家庭の事情がある方もいる。日本語教室に託児できる場所があるとよいのではないかと。こどもは学校で日本語を勉強できるが、親は学ぶ機会がないので日本語が話せない場合も多い。託児所があることで、こどもを預けている間に親が日本語教室で学ぶことができる。そのような取り組みで参加者の日本語が上達し、地域の活動にも積極的に参加してくれるようになるのではないかと。

(4) 令和6年度就学前学習支援（プレスクール）について

- (委員長) 今後の課題としてあげている「継続的な参加をしてもらう」というのは園児と保護者どちらを指しているのか。またプレスクールまで送迎する人が毎回変わるといっているのか。
- (事務局) 園児を指している。園児を送迎するのが両親や兄弟など様々な人が対応する為、保護者間で情報共有ができておらず、プレスクールの参加を忘れてしまう場合があった。
- (委員長) 保護者には事前に指導内容や実施予定を周知しており、保護者間での情報交換が参加忘れの理由であれば非常にもったいないと感じる。次回開催日程を保護者にうまく周知していただいたい。
- (事務局) 現在ではプレスクールの終了ごとに次回開催日程を周知するようにしており、各園にも園児が帰宅する際に、プレスクールがあることを声掛けしてもらっている。
- (委員長) プレスクールの案内を年長だけでなく、年中、年少の園児にも送ることができないか。案内文も多言語で作成して周知するとよいと思う。
- (事務局) 毎年、対象の園児に案内を送りプレスクール参加を促しているが、年中や年少の園児にもチラシやWebサイトを案内することで、プレスクールの周知につながると思う。来年度以降、実施を検討していきたいと思う。

(5) 令和6年度日本語初期指導教室について

- (委員) 今後の課題の「日本語教室が設置されていない学校での学習環境の整備」とは具体的に何を示しているか。
- (委員) 日本語教室が設置されていない学校の場合、指導場所の確保が難しい。講師が週に3回ほど指導する際には、図書館、相談室などを使用している。こどもたちが自分の学びを表現する場所を作ることができないことが課題であると捉えている。
- (委員長) 日本語教室がある学校では、日本語教室の場所が確保されており、教材も充実しているということか。
- (委員) その通りである。その状況になるべく近づけたいと考えている。
- (委員) 今後講師の先生が増えることがあるのか。
- (委員) 講師の空きはあるが、年間で実施する時間が予算で決められている為、その中で対応しなければならない。
- (委員) 参加者は全く日本語が話せないのか。
- (委員) その通りである。

3 その他

特になし